

## 富山県に於ける乳幼児の育児環境と母子関係について

富山医科薬科大学医学部保健医学教室

垣内 孝子, 松原 勇, 永福 智志,  
堀 慎一, 小川 次郎, 伏木 宏彰,  
長谷川 徹, 加藤 清, 垣内 博成,  
成瀬 優知, 鏡森 定信

## I はじめに

乳幼児において母子関係がいかに重要であるかということは、白瀧<sup>1)</sup>などで指摘されているように新生児の行動と母子関係が相互に密接に関係があること、山中<sup>2)</sup>、平井<sup>3)</sup>などが指摘しているように、乳幼児期以後の精神発達にも影響を及ぼしていることなどから明らかである。

しかし、今日の情報化社会に於て乳幼児の育て方に関する情報は溢れており、その中から適切な情報を選ぶのはなかなか困難<sup>4)</sup>であることも指摘されている。

一方、一口に母子関係といっても各家庭の環境や地域の環境及び両親の育った環境などにより各個人さまざまに異なることも報告<sup>5)</sup>されている。そのため、乳幼児の育児指導を行う場合に、種々の育児環境と母子関係の特徴を把握しておくことは有意義である。

そこで、今回は富山県に於ける乳幼児の育児環境についての特徴を把握し、かつ両親の環境などによってどのように母子関係が異なるかをアンケート調査により検討したので報告する。

## II 対象と方法

調査対象は富山県内のT市、O市、N市、K町、T町（地域が偏らないように選んだ）に於て1歳6か月児健診及び9か月児健診に

来た母親375名（有効回答数369名、有効回答率98.4%）である。調査時期は昭和63年夏で、すべて無記名で行った。

アンケートの設問は以下の3つの項目についてである。

- ①母親自身と母親をめぐる環境を問う問題（例えば、在住地域、両親の職業、母親の兄弟構成、主たる育児者、・・・）。
- ②乳幼児の精神発達における重要な課題を問う問題（例えば、泣くこと、笑うこと、人見知り、・・・）。
- ③母親にとってよい子とはどんなものであるかを問う問題。

以上、合計60問以上に及ぶものであったが、本稿では、これらの設問で①での類型が②及び③の設問にどのように反映するかを代表的な数問にしぼって検討する。

また、母親にとってのよい子像は託摩<sup>6)</sup>の報告を参考に14問設けて男児・女児別に複数に○をつけてもらった。なお、検定は回答のカテゴリを2つに分けて2群を比較する2×2の $\chi^2$ 検定を行った。

## III 結果と考察

今回はIで述べたように育児環境が母子関係に大きく影響すると考えられる以下の4つのテーマごとに調査結果と考察を述べることにする。

- ①在住地域や主たる育児者と子育ての関係。
- ②夫の育児への関心と子育ての関係。
- ③母親の兄弟構成と子育ての関係。
- ④母親にとってのよい子像

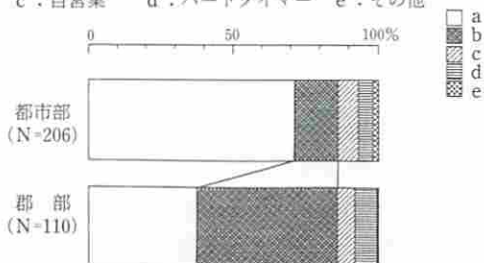
### 1. 在住地域、主たる育児者の群別比較

図1に都市部(母親の平均年齢29.8歳)と郡部(平均年齢28.8歳)の母親の職業を比較すると、都市部では専業主婦71.8%に対して郡部では約半分の割合であった。それは統計的に有意な差であった。また、常勤者については専業主婦とは逆に都市部では15.5%に対して郡部ではその約3倍の割合であった。これも統計的に有意な差であった。なお、母親の年齢にはどの群間にも有意な差はなかった。

図2に主たる日中の保育者の割合を示す。都市部では母親が8割近くなのに対して、郡部では半数程度であった。これも統計的に有意な差であった。

問. あなたの職業はどれに属しますか?

- a:専業主婦 b:常勤(自宅外)
- c:自営業 d:パートタイマー e:その他

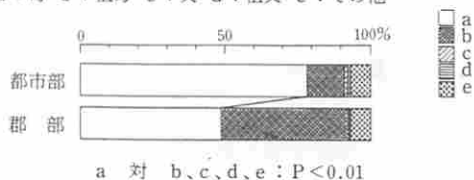


検定結果: b 対 a, c, d, e:  $P < 0.01$   
 検定結果: a 対 b, c, d, e:  $P < 0.01$   
 以降も同様に  $\chi^2$  検定の検定結果を図中に示す。

図1. 都市部と郡部の母親の職業の比較

問. お子さんの世話を昼間は主に誰がしていますか?

- a:母 b:祖母 c:父 d:祖父 e:その他



a 対 b, c, d, e:  $P < 0.01$

図2. 都市部と郡部の主な育児者の比較

問. あなたが平日にお子さんの相手をしている時間は?

- a:1時間未満 b:1時間以上、3時間未満
- c:3時間以上、5時間未満 d:5時間以上

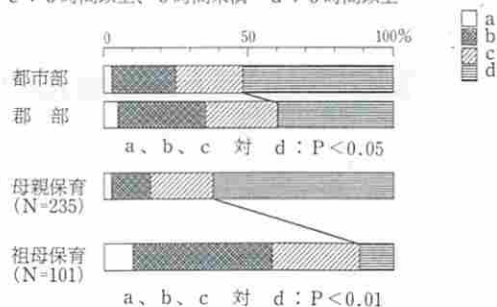


図3. 平日に子供に接する時間(地区、育児者群別)

図3にお母さんが子供の相手をしている時間の回答分布を示す。図1及び図2で示したように都市部では母親保育が多いため、子供と接している時間が長い傾向であることがわかった。また、母親保育(母親の平均年齢28.9歳)と祖母保育(母親の平均年齢29.6歳)では当然ながら有意に母親保育の方が長く子供と接していることがわかる。なお、ここでも母親の平均年齢に有意な差はなかった。

以上のことから概して都市部では母親に専業主婦が多く、従って母親保育が多く子供の面倒を長く母親が見ている割合が多いことがわかった。

図4に子供に泣かれた時にどう感じるかという問いに対する回答分布を示す。2つの図と検定結果が示すように、都市部・母親保育の方がわずらわしく感じる傾向があることがわかった。祖母保育に比べて母親保育の方が母親のわずらわしく感じる傾向があるのは、子供と接する時間が長いことや、他の家事が忙しいことなどが影響していると考えられる。逆に祖母保育の母親は子供と接する時間が少ないが、その分積極的に子供の世話をしていると思われる。

図5に子供が泣いたときその理由がわかるかという問いに対しては、都市部においてはいつもわかる割合が多い傾向があり、母親保育の方がいつもわかる割合が有意に多い。こ

これは、図3で示したように子供と接している時間に大きく関係しているためと考えられる。

以上のことから母親保育の母親は子供と接する時間が多いため、子供が泣いたりするとわずらわしく感じる傾向があるが、その理由がわかる場合が多いことがわかった。

問. 夜に泣かれたり、忙しい時に泣かれたりすると？

- a: いつもわずらわしい    b: 時々わずらわしい  
c: あまりわずらわしくない    d: 全くわずらわしくない

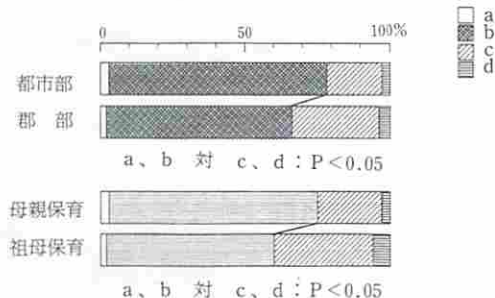


図4. 泣くことに対するわずらわしさ (地区、育児者群別)

問. お子さんが泣いた時、理由がわかりますか？

- a: いつもわかる    b: 時々わかる  
c: あまりわからない    d: 全くわからない

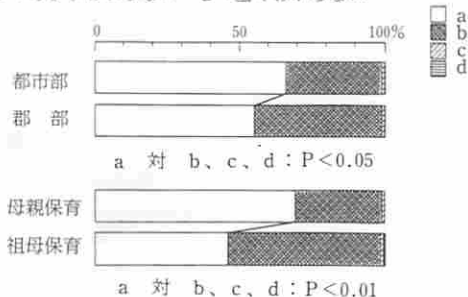


図5. 子供が泣いた理由について (地区、育児者群別)

図6に子供を喜ばせようとしているかどうかに対する回答分布を示す。都市部では統計的に有意な差異はなかったものの努めている割合が高いのに対して、母親保育では図4と同様にあまり努めていない傾向がみられた。これは、子供と接する時間が長いため、育児に慣れが生じ、積極的に子供にかかわろうとする意欲が、低下しているのかもしれない。

図7に子供を喜ばせようとした時の子供の反応に対する回答分布を示す。都市部の場合

はいつも喜ぶ傾向がみられ、母親保育の場合も統計的有意性を示すには至らなかったがいつも喜ぶ場合が若干多かった。

問. あなたは子供を喜ばせようとしていますか？

- a: 努めている    b: 時々している  
c: あまりしていない    d: 全くしていない

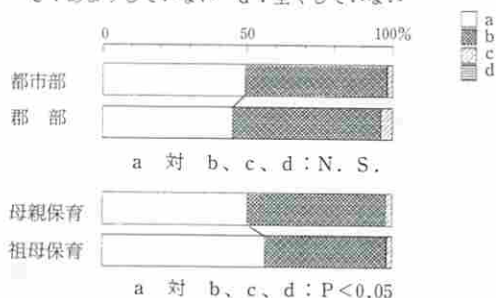


図6. 子供を喜ばせることに関して (地区、育児者群別)

問. お子さんを喜ばせようとした時のお子さんの反応は？

- a: いつも喜ぶ    b: 時々喜ぶ  
c: あまりよろこばない    d: 全く喜ばない

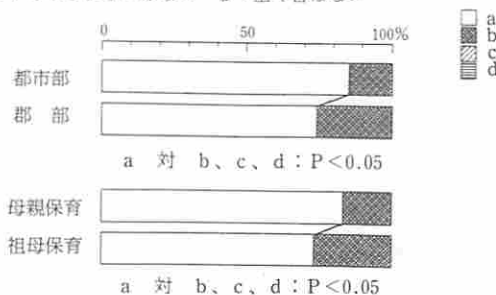


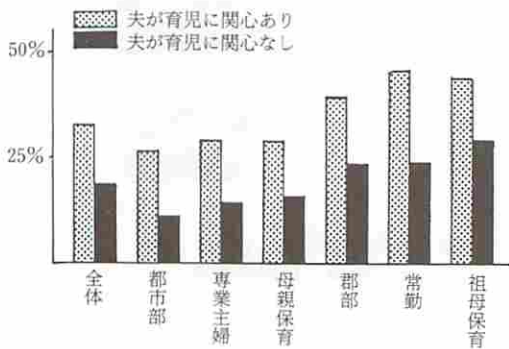
図7. 喜ばせようとした時の子供の反応 (地区、育児者群別)

以上のことから母親の育児態度を子供と接する時間と接し方の両面からみると、母親保育の母親では、接する時間が多いが、接し方が淡泊で、祖母保育の母親では時間が少ないが接し方が濃厚であり、全体としてはどちらも同程度に子供にかかわっているのではないかと思われた。従って、母親と子供の関係は、その育児形態は様々であるが、いずれにしてもうまく保たれていると思われる。

## 2. 夫の育児の関心と母親の子育ての関係

図8に各群別に夫が育児に関心がある割合の分布を示す。どの群もほぼ同程度の割合で

夫が育児に関心があることがわかる。従って、以下の設問の回答において、前節の都市部・母親保育のセレクション・バイアスはないことがわかる。なお、夫が育児に関心のある母親の平均年齢は29.5歳、夫が育児に関心がない母親の平均年齢は29.1歳で、両群で母親の年齢には有意な差は無かった。



注：「どちらでもない」の答えを除く

図8. 各群の「夫が育児に関心がある人の割合」

図9に図4と同様に子供に泣かれた時にどう感じるかという問いに対する回答分布を夫の育児に関心の有無別に示す。夫が育児に関心のある方がわずらわしくないと感じている割合が多い傾向があることがわかる。

図10に図6と同様に子供を喜ばせようとしているかどうかに対する回答分布を示す。ここでも、夫に育児の関心がある方が努めて子供を喜ばせようとしている傾向があることがわかる。

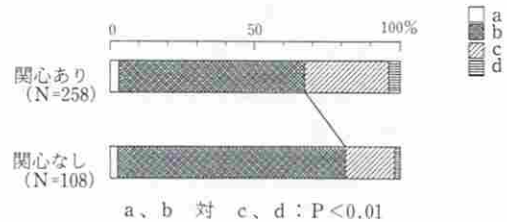
図11に子供が笑ったときにどう感じるかという問いに対する回答分布を示す。ここでも、夫に育児の関心がある方が大変うれしく感じる割合が多い傾向があることがわかる。

図12に子供と添い寝やおんぶ・だっこ等をして楽しく感じるかという問いに対する回答分布を示す。ここでも、夫に育児の関心がある方がどうも思わないや楽しくないといった割合が少ない傾向があることがわかる。

以上のことから夫に育児の関心がある場合の方が、母親の子育てによい影響を与える傾

問. 夜に泣かれたり、忙しい時に泣かれたりすると？

- a : いつもわずらわしい    b : 時々わずらわしい  
c : あまりわずらわしくない    d : 全くわずらわしくない

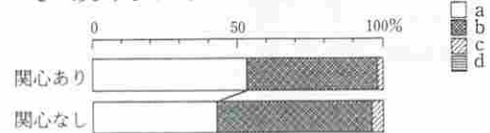


a, b 対 c, d : P < 0.01

図9. 泣くことに対するわずらわしさ (夫の育児の関心の有無別)

問. あなたは子供を喜ばせようとしていますか？

- a : 努めている    b : 時々している  
c : あまりしていない    d : 全くしていない

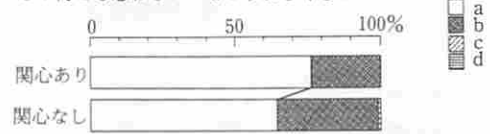


a 対 b, c, d : P < 0.05

図10. 子供を喜ばせることに関して (夫の育児の関心の有無別)

問. お子さんが笑った時あなたはどのように感じますか？

- a : 大変うれしい    b : うれしい  
c : 何とも思わない    d : うれしくない

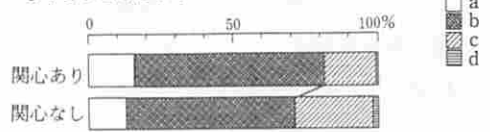


a 対 b, c, d : P < 0.05

図11. 子供が笑うことに関して (夫の育児の関心の有無別)

問. お子さんと添い寝やおんぶやだっこ等をして楽しいですか？

- a : とても楽しい    b : 楽しい  
c : どうとも思わない    d : 楽しくない



a, b 対 c, d : P < 0.05

図12. 育児に対する楽しさについて (夫の育児の関心の有無別)

向が認められた。

### 3. 母親の兄弟構成と子育ての関係

以降では、母親が一人っ子、兄弟の一番上、上に兄弟がいる場合の3群に分けて比較した。

まず、都市部・郡部、母親保育・祖母保育間において3群の構成はほぼ等しく、また父親の育児の関心のあるものの割合も3群ではほぼ等しかった。従って、ここでもセレクション・バイアスはない。なお、統計検定は一人っ子（母親の平均年齢29.4歳）とそれ以外の群（母親の平均年齢29.3歳）で比較した。ここでも、母親の平均年齢には有意な差はなかった。

図13に図3と同様に子供に接する時間の群別回答分布を示す。一人っ子の人数が少ないために（24人）統計的有意差を示すに至らないが、一人っ子の方が子供と接している時間が長い母親の割合が多いことがうかがわれる。

図14に図6及び図10と同様に子供を喜ばせようとしているかという問いに対する回答分布を示す。一人っ子の方が努めている割合が多い傾向がうかがわれた。

図15に図12と同様に子供と添い寝やおんぶ、だっこ等をして楽しく感じるかという問いに対する回答分布を示す。ここでも、一人っ子の方が楽しいと答える割合が多い傾向がうかがわれた。

以上のことから、一人っ子の母の方が子供

問. あなたが平日にお子さんの相手をしている時間は？

a : 1時間未満 b : 1時間以上、3時間未満  
c : 3時間以上、5時間未満 d : 5時間以上

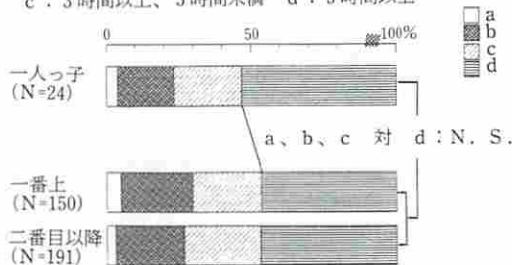


図13. 平日子供に接する時間  
(母親の兄弟構成別)

問. あなたは子供を喜ばせようとしていますか？

a : 努めてしている b : 時々している  
c : あまりしていない d : 全くしていない

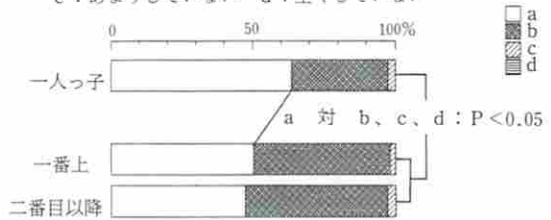


図14. 子供を喜ばせることに関して  
(母親の兄弟構成別)

問. お子さんと添い寝やおんぶやだっこ等をして楽しいですか？

a : とても楽しい b : 楽しい  
c : どうとも思わない d : 楽しくない

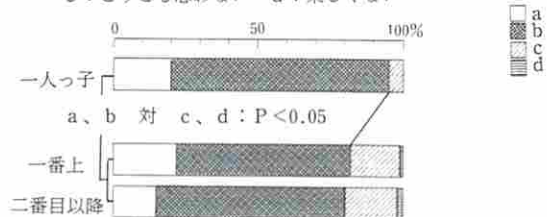


図15. 育児に対する楽しさについて  
(母親の兄弟構成別)

に積極的にかかわっている傾向が示唆された。これには、小さい頃から両親に大切に育てられたことや、それまで兄弟姉妹がいないため寂しい思いをしていたのが影響しているのではないかと考えられる。一人っ子は、他の兄弟の世話をするという経験がないので、自分の子供を育てるに際しても不慣れなことが多く、育児にわずらわしさを感じているのではないかという予想とは異なっていた。

### 4. 母親にとってのよい子像

図16に母親に於ける乳幼児のよい子像を男児・女児別に比べてみた。

男児・女児ともに、「h. 友達とよく遊び友達に好かれる」、「c. 思いやりが深い」、「b. 日常のあいさつがきちんとできる」、の3つが上位を占めており、友達関係・思いやり・社会的適合性がよい子像を代表していると言える。

また、「j. 積極的でたくましい」、「f. し

っかり自己主張ができる」, 「e. 粘り強い」という項目では男児の方が女児より高い回答率を示しており、たくましさ・自己主張・粘り強さが男児のよい子像の特徴と言える。

一方、「l. 気持ちがおだやか」, 「d. 素直に言われたことを守る」という項目では女児の方が有意に男児より高い回答率を示しており、優しさ・素直さが女児のよい子像の特徴と言える。

それに対して「g. 怒っても乱暴などをしない」, 「a. 慎重によく考える」, 「i. 知的関心が強い」, 「m. 早くから字を書いたり読んだりできる」という3～5歳児くらいに大

切なことは乳幼児の段階ではまだ要求されていないことがうかがわれた。

図17に郡部と都市部の男児のよい子像の違いを示す。これ以外の群の比較や女児ではあまり差異がなかったため、今回はこの比較のみを行う。

郡部では「b. 日常のあいさつがきちんとできる」という項目が一番で有意に都市部よりも回答率が高かった。これは都市部の生活状況を現わしているのではないかと考えられる。特に都市部の若い人の多く住む団地では近所付き合いが薄く、あいさつの重要性を若干低くみているためと思われる。

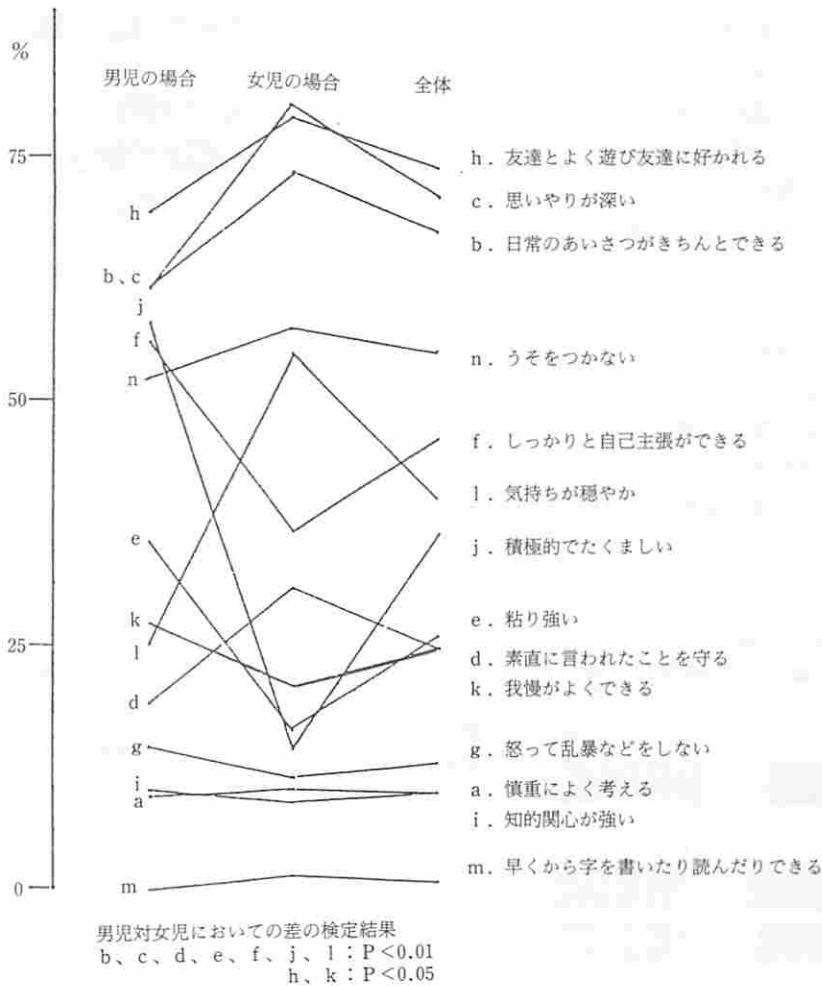


図16. 母親のよい子像

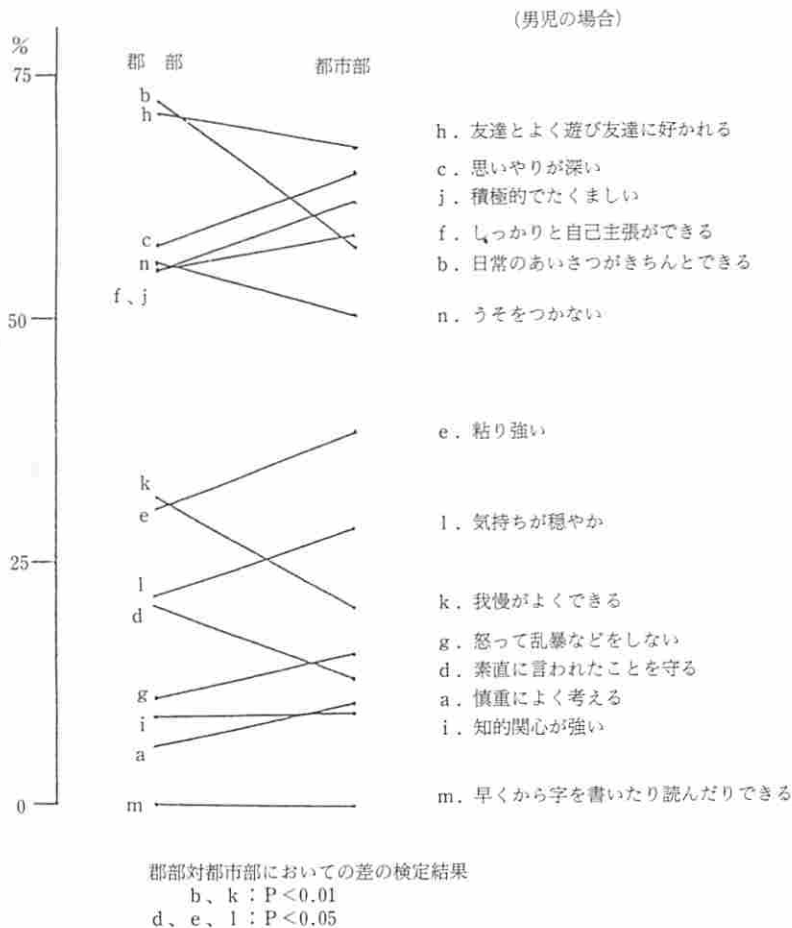


図17. 男児の良い子像の郡部と都市部の違い

#### IV ま と め

富山県の母親に対する乳幼児の育児環境と母子関係等に対するアンケート調査の結果、以下の結論が得られた。

1. 富山県では概して都市部では母親に専業主婦が多く、従って母親保育が多く子供の面倒を長い時間にわたって母親がみている割合が多いことがわかった。また、母親保育の母親は子供が泣いたりするとわずらわしく感じる傾向があるが、泣いた理由がわかる場合が多いことがわかった。一方、祖母保育の母親では子供に接する時間が少ないが、育児により積極的な傾向がみられた。つまり、全体としてはどちらも同程度に子供にかかわってい

るのではないかとと思われる。

2. 夫に育児の関心がある場合の方が、母親の子育てによい影響を与える傾向が認められた。

3. 一人っ子の母の方が子供に積極的にかかわる傾向が示唆された。

4. 友達関係・思いやり・社会的適合性がよい子像を代表していた。一方、男児では、たくましさ・自己主張・粘り強さもよい子像と言えた。また、女兒では優しさ・素直さもよい子像と言えた。しかし3～5歳児くらいに大切なことは乳幼児の段階ではまだ要求されていなかった。地域差については、生活環境がよい子像に影響を与えていることがうかが

われた。

なお、今回の調査では何れの群の間でも母親の平均年齢の差はなかった。

今後の問題点として、今回の調査は9か月児の母と1歳6か月児の母を分けずに検討したが、両群での差異もあると考えられるので、今後はさらに調査数を増やして、9か月児の母と1歳6か月児の母を分けて検討したい。さらには、1か月児、3か月児、3歳児の母にも調査を広げていきたい。また、将来は父親や祖母などにも調査を広げ、さらに乳幼児の育児と家庭環境についても検討していきたいと考えている。

最後に、アンケートにご協力いただきました各市・町・保健所の方々及び母親の方々に感謝致します。

## 参 考 文 献

- 1) 白瀧貞昭：新生児行動と母子相互作用，周産期医学，19-6：833-836，1986
- 2) 山中康裕：臨床心理相談からみた乳児期の母子相互作用の意義，周産期医学，13-12：2037-2041，1983
- 3) 平井信義：乳幼児の精神衛生，診断と治療社，1981
- 4) 上田礼子他：しつけに関して母親が得ている情報源について，小児保健研究，40-5：442-446，1981
- 5) 小矢部市・福岡町・小矢部保健所・富山県厚生部公衆衛生課：昭和60～62年度へき地乳幼児健康審査事業報告書，1988
- 6) 詫摩武俊：母親の育児態度，周産期医学，13-12：2237-2240，1983